

『クロードアの秘密』
E. L. カニグズバーグ//作
松永 ふみ子//訳
岩波書店

☆☆☆

11歳の少女クロードアは、同じことを繰り返す毎日にうんざりし、家出を決意する。家出先を美術館に決め、弟のジェイミを相棒に、ありったけのお小づかいを持ってバスに乗りこんだ。たくみに見回りをかわしながら、ふん水のお風呂に入り、展示品のベッドでねむる日々。ちょうどそのとき、美術館では特別展示のちょう刻に皆が夢中だった。二人は、ミケランジェロが作ったというその像の秘密を調べ始めるが…

読んだ本の☆をぬってみよう！

いくつぬれたかな？ コ

2022.7 発行

～テーマ別ブックリスト～

夏

【5・6年生】



『ピトゥスの動物園』
サバスティア・スリバス//著
あすなる文庫

☆☆

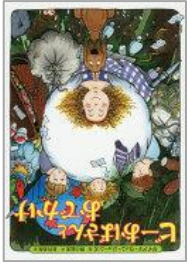


『すばらしいとき』
ロバート・マックロスキー//作
福音館書店

☆☆

アメリカの小さな島で早春から夏のおわりまでを過ごす姉妹の日常が、詩のような文章と美しい絵で描かれている。

豊岡市立図書館



『ピーおばさんとおでかけ』
ダイアナ・ウイナ・ジョーンズ//作
徳間書店

☆☆☆☆

湖のほとりの農場で夏休みを過ごしている船ツバメ号を借りて、子どもたちだけで湖の島で過ごすことを許されます。ヨットのあやつり方や、キャンブの仕方など、自然の中で過ごす楽しみいっぱい冒険物語。



『ツバメ号とパパの島 上・下』
アーサー・ランサム//作
神宮 輝夫//訳
岩波書店

ピーおばさんは、一度こうと決めたら間かないやっかいな人。ある夏、ナンシー、サイモン、ナビの3兄弟はピーおばさんと海へ行く。でもピーおばさんが島を「おこらせた」せいで大変なことになり…。



『長く下のビッド』
アストリッド・リンダグレン//作
大塚 勇三//訳
岩波書店

☆☆

1866年、海で原因不明の事故が続発する。それは、何か「ばかでないもの」に出会ったという目撃情報や、船の底に巨大な穴が開けられるといった怪事件だった。主人公の学者、フロナスは謎を解明するため、助手のコンセイクとともに調査に出かけることになるが…。



『海底二万里 上・下』
ジュール・ヴェルヌ//作
石川 湧//訳
岩波書店

☆☆☆



『ペンダーウイックの四姉妹 夏の魔法』
ジーン・バースオール//作
小峰書店
(シリーズあり)

☆☆

ペンダーウイック家の四姉妹とお父さんは夏休みを広いコテージで過ごすことにしました。広いお屋敷で夢のようにすてきな夏の思い出を、と思ったら大間違い。大変な事件がいくつも起こってハラハラドキドキの連続で…。



☆☆

美舟の将来の夢は、「まっとうに生きる」こと。でも家業の便利屋にはいろいろな「夢」を追いかける人たちがやってきて…。

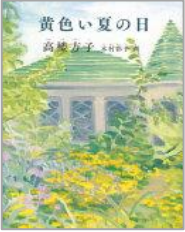
『べんり屋、寺岡の夏。』
中山 聖子//作
文研出版

☆☆



『ペンダーウイックの四姉妹 夏の魔法』
ジーン・バースオール//作
小峰書店
(シリーズあり)

☆☆



『黄色い夏の日』
高楼 方子//著
福音館書店

☆☆☆

美術部の課題で、建物を描くことになった景介。主のおばあさんに招き入れられ、古めかしい洋館に足をふみ入れた景介は、かれんな少女・ゆりあに心引かれていく。現在と過去を行き交うような、不思議なお話。物語の世界を表した、カラーの美しいさし絵も魅力。



『海ガラスの夏』
ミシェル・ハウツ//文
バグラム・イバトゥーリン//絵
福音館書店

☆☆

夏のある日トーマスは、海辺で海ガラスを見つける。その夜、海ガラスを枕元に置いて寝たトーマスは、とてつもなく大きな船の夢を見る。小さな海ガラスから広がる夏の物語。

☆☆